

都市再生整備計画

か こ が わ し
加古川市かわまちづくり地区(第2回変更)

ひょうご
兵庫県 加古川市

令和7年12月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	<input type="checkbox"/>
まちなかウォーカブル推進事業	<input type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	兵庫県	市町村名	加古川市	地区名	加古川市かわまちづくり地区	面積	53 ha
計画期間	令和6年度～令和9年度	交付期間	令和6年度～令和9年度				

目標

- 大目標：駅からの回遊性を生み出す新しい日常空間の創造
 目標1：住みたくなるまち（潤いと憩いを感じられる河川空間の創出）
 目標2：遊びに行きたくなるまち（新たなオープンスペースの形成、アクセスの良さとロケーションを活かした新たな賑わい拠点の創出（民間活力導入事業））
 目標3：安全・安心なまち（盛土等による河川堤防の強化）

目標設定の根拠

都市全体の再編万針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針）
 加古川市は、兵庫県南部の播磨灘を貫流する加古川河口に広がる地域で、JR神戸線、JR加古川線、山陽電鉄本線の鉄道が通り、国道2号加古川バイパス、国道2号、国道250号等をはじめとする幹線道路が通る交通利便性の高い地域となっている。海岸線には、わが国有数の鉄鋼工場があり、播磨臨海工業地帯の一翼を担い、南部や中央部では、商業・サービス業の集積が進み、北部では、自然環境と生活利便性の両方を享受できるまちとして発展している。しかしながら、本市の人口は2015年の267,435人をピークに減少に転じており、2023年5月1日時点でも257,019人となるなど、近年の少子高齢化・人口減少に伴う課題に直面している。
 このような中、令和2年度に策定した加古川市総合計画（令和3年度から令和8年度）において、都市空間の利用の方向性を「必要な都市基盤の整備を進めつつ、各拠点に応じた都市機能の誘導と集積を図るとともに、拠点間等を交通ネットワークで有機的に連携させること、コンパクトで持続可能な都市構造への転換が必要」とした。また、令和4年度に策定した都市計画マスタープラン（令和5年度から令和12年度）において、「安全・安心」「快適・活力」「にぎわい・交流」を基本目標とし、「まとまりとつながり」を重視した持続可能な都市構造として「拠点集約・連携型都市構造」の実現を目指すこととしている。さらに、同じく令和5年度に策定した立地適正化計画（令和5年度から令和12年度）においては、市民や多くの来訪者が利用する駅周辺に新たな人の流れや、求心力を高める都市機能を誘導することとしている。
 本都市再生整備計画の対象地区である「加古川市かわまちづくり地区」は、本市の都心（JR加古川駅周辺）を含む「加古川地区」内に位置し、高次的な都市機能の誘導と集積を進め、魅力ある拠点を形成することや、道路ネットワークの強化にも取り組むことを示している。そして、「加古川市かわまちづくり地区」は河川敷にぎわいエリアとして、官民が協働して、駅周辺と一緒に新たなにぎわい拠点の形成を図ることとしている。

まちづくりの経緯及び現況

加古川市総合計画において、まちづくりの基本理念を「ひと・まち・自然を大切にし ともにさえ はぐくむまちづくり」としている。これまで、加古川市のシンボル的な水と緑の空間として、加古川及びその沿線を重点的に保全するとともに、親水空間を活用したレクリエーション機能の充実を図ってきている。特に、都心や日岡山公園と近接する加古川河川敷においては、市民がより一層親しみやすい水と緑の空間の形成を目指した整備を行っている。
 令和2年度に策定した「加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、ひと「結婚・出産・子育ての希望をかなえるまち」、まち「住みたいまち・行きたいまち」の3つの基本目標を設定し、「河川敷を活用した、水辺を感じながら楽しむことができる取組」を具体的な施策として打ち出している。また、立地適正化計画においても河川敷の利活用については、都心副都心における賑わいの創出に資する具体的な推進施策として位置づけ、加古川駅から河川敷緑地の回遊性の向上によるウォーカブルなまちづくりを進めることとしている。
 加古川河川敷の中でも、加古川駅周辺エリアは、大型商業施設が立地する市街地を経由して駅から歩いていくことができる場所にあることから、「ひと」がやすらぎ、「まち」が賑わい、「自然」で憩える「ウェルネス都市加古川」の快適拠点として、また回遊性の高いネットワークを形成するための新たな目的地として期待される。このような中、令和2年度から加古川河川敷を活用した新たな賑わいの創出に向けた取組の検討を開始し、「加古川市かわまちづくり協議会」を設置し、市民や市民活動団体による新たな河川敷の活用方法の提案を求めるシンポジウムやワークショップ、アンケートを重ね、令和4年8月に「加古川市かわまちづくり計画」は登録認証を受けることができたため、今後は、当該計画の実現を目指した取組みを進める。

課題

全国的な少子高齢化の影響を受け、本市においても都心・副都心などのスボンジ化（空洞化）の進展、地域活力の低下により、中心市街地としての魅力や吸引力の低下が懸念される中、都心・副都心の求心力の向上に向け子育て支援、教育・文化、レジャー機能を充実させることで、生活利便性にとどまらず多機能な魅力を有する都市を形成することが、立地適正化計画を策定し、解決すべき課題の一つとしている。
 加古川駅周辺地区の加古川の河川敷は、現在もスポーツや散歩・ランニング、憩いの場等として利用されており、レクリエーション活動に対する市民のニーズが高まっている中、より質の高い水と緑の河川空間が求められている。しかしながら、グラウンド等はあるものの十分な環境整備がなされておらず、トイレは仮設トイレであり、休息できる木陰や東屋等もない状況となっている。また、加古川は加古川駅から徒歩10分程度でアクセスできる距離にあるが、駅からのアクセスルートが分かりにくく、道が狭く、車と歩行者が交錯する箇所もある。駅から加古川までの間には、賑わいのある商業施設や商店街が立地しているが、これらと連携した魅力的な都市拠点の形成には至っていない。

将来ビジョン（中長期）

- ①加古川市都市計画マスターplan(2023-2030)（令和4年度策定）
 - ・「にぎわい・交流」への取組…河川敷緑地と都心部とが近接していることを強みと捉え、駅周辺から河川敷緑地へのネットワークの強化やウォーカブルな空間の充実を図ることで、新たな人の流れを呼び込み、「にぎわい・交流」のあるまちづくりに取り組む
 - ・水と緑のまちづくりの方針…加古川河川敷の積極的な活用： 加古川駅周辺の河川敷では、都心との連携のもと、新たな人の流れや、にぎわいの形成の場として積極的な活用を進める。
 - ・地域別構想…加古川地域： 河川敷にぎわいエリアは、官民が協働して、駅周辺と一緒に新たなにぎわい拠点としての活用を検討
- ②加古川市立地適正化計画(2023-2030)（令和5年度策定）
 - ・基本理念…まとまりとつながりにより安心で快適に暮らせるまちづくり
 - ・都市機能誘導に関する施策（都心・副都心における賑わいの創出）…本市のシンボルである加古川の河川敷を更なる賑わい拠点として活用
 - ・具体的な推進施策…「加古川市かわまちづくり計画」に基づく事業（加古川河川敷周辺）

都市構造再編集中支援事業の計画							
都市機能配置の考え方							
加古川駅周辺地区は本市の都心として高次的な都市機能の誘導と集積を進め、魅力ある拠点を形成することとしており、本計画地区は、河川敷にぎわいエリアと位置づけ、官民が協働して、駅周辺と一体となった新たな賑わい拠点の形成を図ることとしている。さらに、加古川駅周辺は都市機能誘導区域に指定しており、大型商業施設の維持・発展を図るとともに、市民から期待されているレジャー・余暇を楽しむ場所や駅前の賑わい創出に向け、河川敷の更なる活用に必要となるレクリエーション機能の充実を図る。							
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等							
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
イベント件数	件／年	加古川・河川敷の加古川市域で実施したイベントの取組件数	河川敷における新たな魅力を創出し、来訪者増加を図る指標とする 「遊びに行きたくなるまち」であることの指標とする	15件／年	R1年度	20件／年	R9年度
イベント来場者数	人／年	加古川市協働のまちづくり推進事業補助金を活用した河川敷におけるイベントへの来場者の年間総数	来訪者の増加の指標とする 「遊びに行きたくなるまち」であることの指標とする	64,007人／年	R3年度	100,000人／年	R9年度
定住意向	%	加古川市市民意識調査における、現在の場所に住み続けたい、市内の他の場所に移りたい、と回答した人の割合	「住みたくなるまち」であることの指標とする	74.40%	R4年度	78.00%	R9年度
市民満足度	%	加古川市市民意識調査における、まちなみの綠化や河川敷等の活用に関して満足している市民の割合	「住みたくなるまち」「遊びに行きたくなるまち」であることの指標とする	57.60%	R4年度	63.00%	R9年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
目標1:住みたくなるまち(潤いと憩いを感じられる河川空間の創出)	【基幹事業】(地域生活基盤施設)加古川河川敷緑地(広場整備(スポーツ広場、芝生広場、駐車場、舗装広場、園路、ベンチ、車止め、シェルター、手洗い、トイレ、照明施設)) 【関連事業】水際等整備工事
目標2:遊びに行きたくなるまち(新たなオープンスペースの形成、アクセスの良さとロケーションを活かした新たな賑わい拠点の創出(民間活力導入事業))	【基幹事業】(道路)市道本町39号線(道路整備(アスファルト舗装、コンクリート舗装、境界ブロック、車止め)) 【基幹事業】(高質空間形成施設)新たな賑わい拠点(緑化施設等整備(広場、トイレ、照明施設、ストーブ、用地費、インターロッキング舗装、給排水施設整備、遊具)) 【基幹事業】(高質空間形成施設)区画道路1号線(植栽、インターロッキング舗装、照明灯、案内板) 【提案事業】(まちづくり活動推進事業)協働のまちづくり推進事業補助金(市民活動団体によるイベント開催支援)、加古川駅周辺回遊性向上推進業務(駅周辺の利活用社会実験) 【関連事業】拠点施設(民間事業者による拠点施設(飲食・物販等)の誘致) 【関連事業】商業団体等元気アップ事業補助金(地元商店街を活かしたマーケットイベント開催支援)
目標3:安全・安心なまち(盛土等による河川堤防の強化)	【基幹事業】(道路)市道本町39号線(道路整備(アスファルト舗装、コンクリート舗装、境界ブロック、車止め)) 【基幹事業】(高質空間形成施設)新たな賑わい拠点(緑化施設等整備(広場、トイレ、照明施設、ストーブ、用地費、インターロッキング舗装、給排水施設整備、遊具)) 【関連事業】護岸改良事業 【関連事業】側帯盛土事業
その他	<p>【加古川市川まちづくり計画の概要】</p> <p>◆かわまちづくりのコンセプト 駅からの回遊性を生み出す新しい日常空間の創造</p> <p>◆かわまちづくりの基本的考え方 ・加古川駅から歩いて行ける河川空間を、「ひと」がやすらぎ、「まち」が賑わい、「自然」で憩える“ウェルネス都市加古川”の快適拠点として整備し、回遊性の高いネットワークを形成する。 ・その上で唯一無二の流れを見せる加古川。川面を眺め風に吹かれながらの出会い、楽しみ、発見がある新たな日常空間を市民と共有する。 ・かわまちづくりの実現にあたっては、河川管理者である国土交通省と加古川市が連携するとともに、兵庫県や民間事業者、地域住民、市民活動団体との役割分担と“協働”的もとに取組を推進する。 ・メインテーマは、「若者・子育て世代」とする。</p> <p>◆かわまちづくりによる効果 ①住みたくなるまち ・加古川駅周辺整備の一環として回遊性と一体性を持った魅力的な都市拠点の形成　・加古川駅周辺地区の居住空間としての魅力の向上　・潤いと憩いを感じられる河川空間での市民のウェルネス活動の促進 ②遊びに行きたくなるまち ・新たなオープンスペースの形成による日常的なまちの賑わいの創出　・アクセスの良さとロケーションを活かした新たな賑わい拠点の創造 ③安全・安心なまち ・盛土等によって河川堤防が強化されることによる災害時における安全性の向上 ◆加古川市かわまちづくりのための施策(例示) ●ソフト施策 ①スポーツ活動：ランニング、ウォーキング、サイクリング、野球等の球技、スケートボード等のイベント開催　カヌー、SUP等の水面利用 ②レジャー活動：多目的広場でのイベント、バーベキュー、水辺での水遊び、魚とり等 ③憩いの場としての活動：多目的広場、東屋、トイレ、物販・飲食施設、ベンチでの憩い ④学びの場としての活動：水辺での環境学習、河川防災学習、テレワーク等 ⑤まちと連携した回遊性の創出：各種のまちあるきイベント、にぎわい創出イベント(商業施設・商店街との連携等)、加古川ツーマーチ等の既存イベントとの連携等、ウォーカブルなまちづくりの推進に向けた取組 ○実施中の取組 -加古川市協働のまちづくり推進事業補助金を活用したイベントの実施 河川敷を活用した新たな賑わいづくりをテーマに、市民活動団体が主体的に取り組むイベント実施にかかる費用を補助している。 令和3年度:9団体(来場者数のべ64,007人) 令和4年度:19団体(来場者数のべ94,025人) 令和5年度:14団体実施予定 -ワークショップを契機にした地元商店街でのマーケットイベントの開催 令和4年度に加古川駅から河川敷をつなぐ地元商店街を巻き込み、市民活動団体と市の協働によるワークショップを開催。「かわとまちをつなぐ」をコンセプトとしたマーケットを開催(令和4年10月22日・来場者数5,471名)。好評により令和5年4月から地元商店街の独自取組として月1回の定期イベントとして開催。 ●ハード施策 【河川空間】 法面(階段状)の整備　・広場整形　・駐車場の整備　・護岸の整備　・船着場の整備　・ライフラインの整備 【堤防等】 市道新加古川左岸線沿い堤防部分(堤内地側)での賑わい拠点の形成　・河川空間へのアクセスの確保　・加古川駅からの回遊動線を示す案内表示板等の整備　・景観に配慮したトイレの設置　・潤いと憩いを感じられる緑地の整備 ○実施中の取組 -河川空間のオープン化に向け、左岸堤防の盛土予定地においてキッチンカーを集める社会実験を実施(令和4年9月10月の7日間に開催。来場者総数3,425人)、令和5年7月7日、8日実施済(来場者総数1,395人)。</p> <p>【その他官民協働の取り組み事例】 -加古川市かわまちづくり協議会による「加古川市かわまちづくり計画」の策定(令和4年3月) 策定にあたっては、市民や関係団体・機関を巻き込んだ、シンポジウム、ワークショップ、アンケートを実施</p>

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項(都市構造再編集中支援事業)

様式(1)-④-1

交付対象事業費	1,267	交付限度額	570.1	国費率	0.45
---------	-------	-------	-------	-----	------

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費		交付対象事業費	費用便益比B/C	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分			
道路	市道本町39号線(道路整備(アスファルト舗装、コンクリート舗装、境界ブロック、車止め))	加古川市	直	幅員:6m 延長:296m	R9	R9	R9	R9	34	34	34		34	-	
地域生活基盤施設	加古川河川敷緑地(広場整備)	加古川市	直	50,000m ² (広場整備(スポーツ広場、芝生広場、駐車場、舗装広場、園路、ベンチ、車止め、シェルター、手洗いトイレ、照明施設))	R6	R9	R6	R9	819	819	819		819	-	
高質空間形成施設	新たな賑わい拠点(緑化施設等整備)	加古川市	直	3,000m ² (緑化施設等整備(広場、トイレ、照明施設、スロープ、用地費、インターロッキング舗装、給排水施設整備、遊具))	R6	R9	R6	R9	273	273	273		273	-	
高質空間形成施設	区画道路1号線(緑化施設等整備(植栽、インターロッキング舗装、照明灯、案内板))	加古川市	直	幅員:12m 延長:606m	R6	R7	R6	R7	64	64	64		64		
合計										1,190	1,190	1,190	0	1,190	

…A

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費		交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分	
まちづくり活動推進事業	協働のまちづくり推進事業補助金	かわまちづくり地区	加古川市	直		R3		R6	R9		45		45
	加古川駅周辺遊歩性向上推進業務	加古川駅周辺地区	加古川市	直		R6	R9	R6	R9		32		32
合計										0	77	0	0

…B

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間		(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費		交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分	
居住誘導促進事業											0	0	0
合計										0	0	0	0

合計(A+B+C) 1,267

…C

(参考)都市構造再編集中支援関連事業

(参考)関連事業

加古川市かわまちづくり地区(兵庫県加古川市)

面積

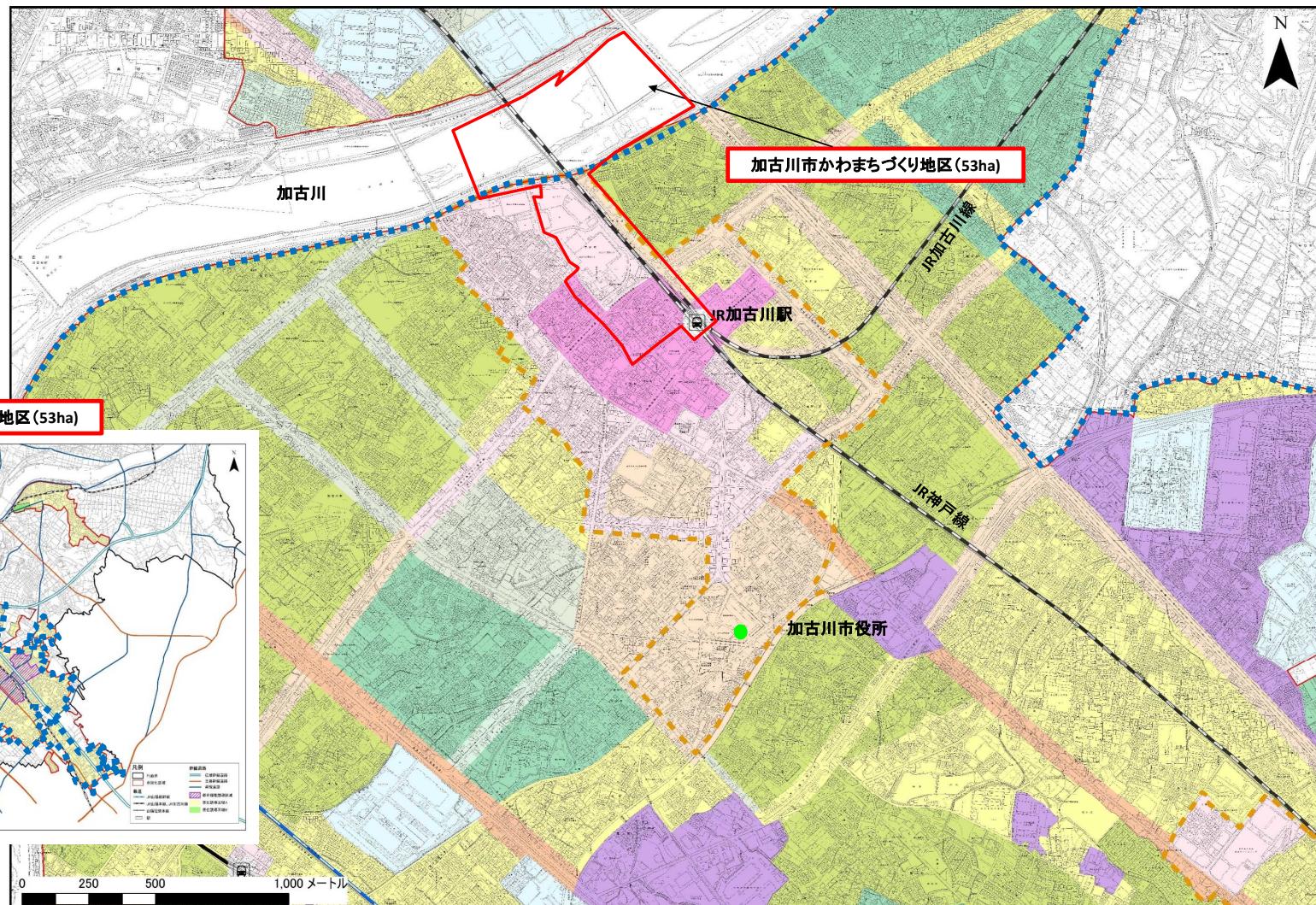
53

ha

区域 加古川市加古川町河原地内

凡例

- 都市再生整備区域
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域
- 鉄道(JR)
- 施設



加古川市かわまちづくり地区(兵庫県加古川市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

